

調べるときのヒントだよ

どんなところで水と関わっているかな？







応募しましょう

しめきり　2026年 11月5日(木)（当日消印有効）

新聞が完成したら、「第 12 回 セディア財団 全国小学生『わたしたちのくらしと水』かべ新聞コンテスト 2026」に応募しましょう。応募要項に書いてある注意事項をおうちの人や先生ともう一度よく確認して、応募しましょう。

本資料について

本資料は、「第 12 回 セディア財団 全国小学生『わたしたちのくらしと水』かべ新聞コンテスト 2026」に応募するための手助けになればとの思いで制作したものです。必要に応じてコピーしていただき、児童のみなさまに配布していただければ幸いです。

割付用紙やテンプレートなどは下記からダウンロードできます

sedia-found.org/contest_newspaper/

わたしたちのくらしと水　かべ新聞コンテスト　検索

作品の送り先・お問い合わせ先

「わたしたちのくらしと水」かべ新聞コンテスト事務局

〒 104-0032 東京都中央区八丁堀 3-17-6　群成舎八丁堀ビル 6 階（プラスエム内）

◇E メール：mizu-shinbun@plus-m.co.jp　◇電話：03-6222-5251　◇FAX：03-6222-4823

公益財団法人 セディア財団

SEDIA Foundation

第12回 セディア財団 全国小学生

「わたしたちのくらしと水」

かべ新聞コンテスト2026

夏休みの課題にピッタリ!!

かべ新聞のつくり方

7つのポイント

応募の手引き

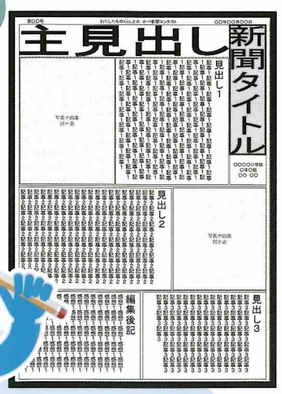
新聞ってどうやってつくるの？ なんだかむずかしそうだな！

こんなふうに困っているキミ、心配いらないよ。

この応募の手引きを参考にして、さあ、自信を持って応募にチャレンジ！

Word／PowerPoint がタテ書き・ヨコ書き対応

WEBサイトからテンプレートをダウンロードできます。





デジタル新聞作成用テンプレート

※文字や写真などを入れるだけで新聞をつくることができます。

もちろん割り付けを自由に変更することも可能です。



公益財団法人 セディア財団

1 テーマを決める

・下のテーマ例をお手本に、自分で書いてみたいな！と思うテーマをさがしてみよう。
・たとえば「水を大切にするためのくらしの工夫」をえらんだら、自分の家でできる「水を大切に使う」ためにできることを調べてみましょう。
・図書館で本をさがしたり、インターネットをつかって調べてもいいです。
・こまった時は、おうちの人や先生と話して、いっしょに決めましょう。

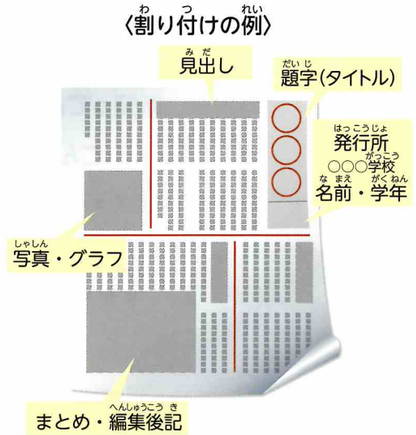
たとえば、つぎのようなテーマを参考にしてください。

○ 水を大切にするためのくらしの工夫
○ お米をつくるのにどれくらい水が必要？
○ 世界の国の水事情
○ 水と環境のつながりを調べてみよう
○ わたしたちの地域の水じまん
○ キレイな水でつくるおいしい野菜
○ 学校や家で使う水はどこからくるのかな？
○ もし水がなくなったらどうなるの？
○ 水とエネルギーの関係
○ SDGsと私たちのくらしと水
○ 学校の池や近くの川で見つけた生き物たち
○ 水を通して考える自然の恵みと災害　など

2 新聞の割り付けを考える

・かべ新聞や学習新聞とは、授業で学んだこと、自分で調べたことや考えたことをまとめて、人に伝わるように文章を書いてつくる新聞のことです。
・かべ新聞はかべに貼り、より多くの人に見てもらえるように、大きな紙に大きな文字で表現します。
・割り付けとは、新聞の「どこに」「なにを」を入れるか、題字（タイトル）や見出しの「場所」や「大きさ」をどうするかなど、わくを決めることです。
・記事（書く内容）の数だけ、線で区切りましょう。
・新聞の大きさや写真・イラストの場所も、決めておくとよいでしょう。

〈割り付けの例〉



★割付用紙やテンプレートを活用しよう！（セディア財団ホームページからダウンロードできます　※裏面参照）

3 取材をする《調べる・事実を確認する》



・計画を立て、それに合わせて資料を集め、人に聞くなど取材をします。
・自分の目や耳や足を使って調べ、確かめて記事を書くことが大切です。
・友だちやおうちの人からアンケートを取る方法もあります。
・取材できない時は、図書館やインターネットで調べて書く方法もあります。

取材先の例

取水場、浄水場、近くの川や海など、水に関係する科学館や資料館

※おうちの人といっしょにさがしましょう。

情報収集先の例

学校の図書室、図書館またはインターネットの活用など

※出典を必ず書きましょう。

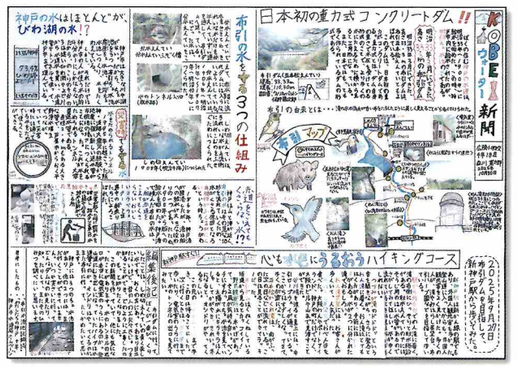
4 記事を書く（見出し・本文・イラスト）

・書くことを決めます。また、どこに、どんなことを入れるかを決めます。
・文章は、だれにでもわかるように読みやすく書くことが大事です。
・「いつ、どこで、だれが、なにを、どうして、どうなったか」が、できるだけ新聞を読む人に伝わるように書くことが大切です。
・手書きだけでなく、パソコンやタブレットを使って作ることもできます。
・最後に「まとめ」や「編集後記」で感想や自分の考えを書きましょう。



5 色付けの工夫をする

・題字（タイトル）と見出しは、「はっきりと」「大きく」「こく」書きます。
・色えんぴつ、サインペン、絵の具、筆などを使って色のバランスを考えましょう。
・イラストや写真も上手に使ってみましょう。



6 仕上げ

・書きまちがいがないか見直します。ほかの人に読んでもらうといいです。

7 発表

・新聞には、必ず「読む人」がいます。完成したらかべに貼り発表してみましょう。
・取材や調べてわかったことを相手に伝えましょう。
・友だちや先生に感想を聞いてみましょう。

